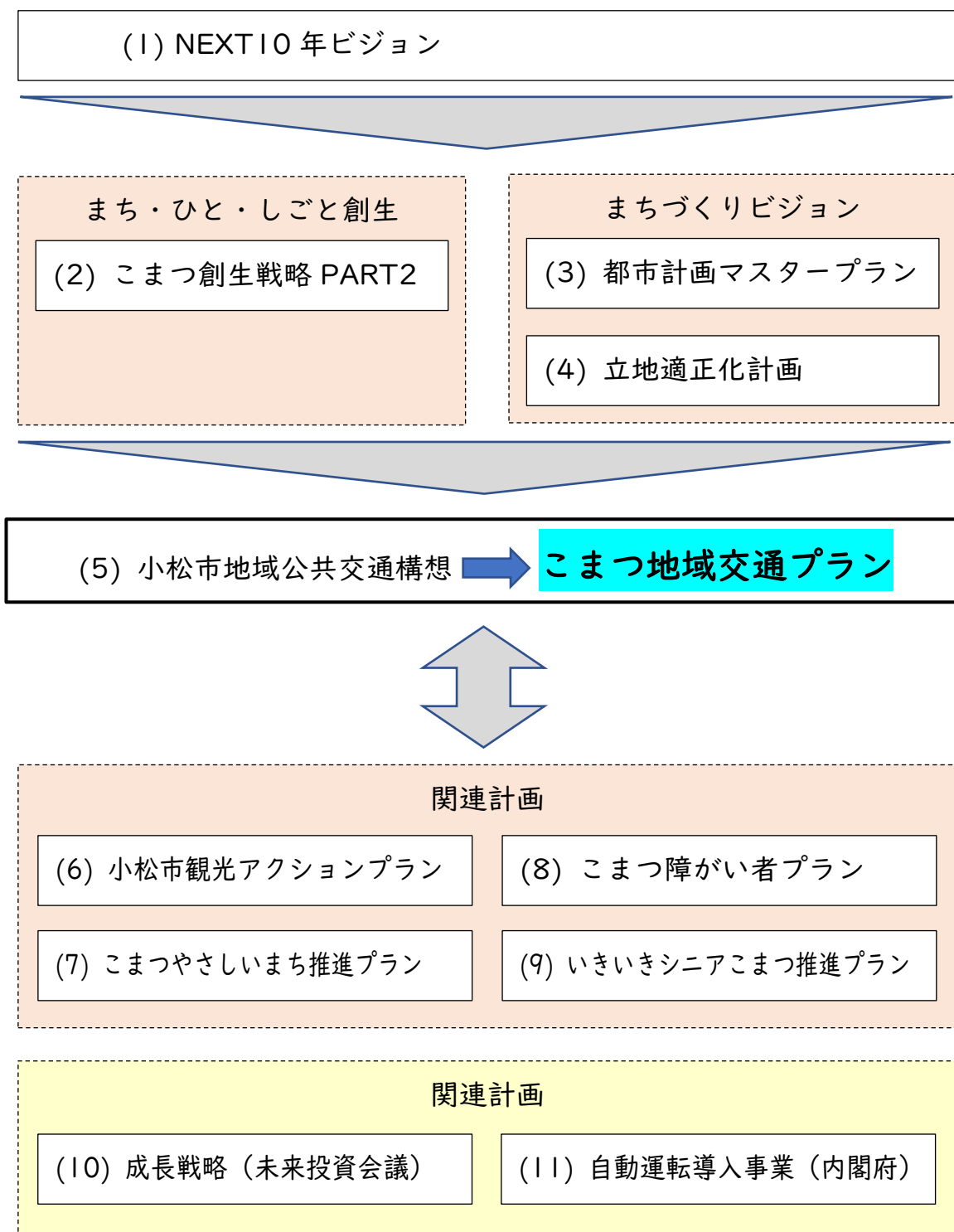


### 3. 上位計画及び関連計画の整理

交通プラン策定に係る上位計画・関連計画（NEXT10年ビジョン、都市計画マスタープラン、観光・福祉計画等）及び立地適正化計画におけるまちづくりの方向性や地域振興施策等について把握・整理し、まちづくりと地域交通の整合を図る。



## (1) NEXT10年ビジョン

計画名称	NEXT10年ビジョン(2015~2025年度)
コンセプト	「新たなライフスタイルとまちのブランド力の向上」を図り、北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」をめざす
主な目標値	2025年に人口10.5万人以上(2015年10.7万人) 2025年に交流人口700万人(2014年380万人)
取組方向性	<p>時代変化を先取りし、4つの視点と8つの都市像を掲げ、コンセプトの実現をめざす</p> <p>(視点1) 変革と成長しつづける ～レボリューション、日本一「おもしろい」まちに</p> <p>①大交流時代の北陸の拠点として人びとが行き交います</p> <p>②小松文化と世界のハーモニーで感性豊かなまちが育まれます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動走行ビークルで空港と北陸新幹線小松駅を直結し、通勤・通学、ビジネス、観光、研修など南加賀のターミナル化</li> <li>・粟津駅は歴史観光に加え、ものづくりビジネス、環境王国、高等教育の玄関口として、南部エリアの交通拠点化</li> </ul> <p>(視点2) 進化する科学技術が躍動する ～イノベーション、日本一「たくましい」まちに</p> <p>③昔も今もこれからも、未来を拓く創造とサイエンスに富んだものづくりが小松市の象徴です</p> <p>④環境と共生するスマートな暮らし方が日本中から評価されます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(情報通信技術)がまちに広がり、買い物、病院、旅行、子育てなど、暮らしのシーンはキャッシュレス</li> </ul> <p>(視点3) 新たなライフスタイルを楽しむ ～ルネサンス、日本一「ここちよい」まちに</p> <p>⑤予防先進を合言葉に地域一体となって心地よい暮らしを楽しみます</p> <p>⑥里山・水辺に親しむ三世代笑顔が小松の自慢です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小松駅や交流拠点を中心に、公共交通が地域を結びます</li> <li>・地域力を活かし、独自で運行する交通機能も広がり、みんなの暮らしを支えます</li> </ul> <p>(視点4) チャレンジしつづける ～アクティブ、日本一「はつらつ」としたひととまちに</p> <p>⑦意欲的に学習や地域貢献に取り組むはつらつとした人びとが、世界でふるさとで輝きます</p> <p>⑧たくましい財政、市民から信頼される市役所が小松市の持続と発展をリードします</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学では、休日や夜間に学習講座が開催され、女性やシニアなど、沢山の市民が訪れ、地域に身近な「人材育成拠点」となります</li> </ul>

## (2) こまつ創生戦略 PART2

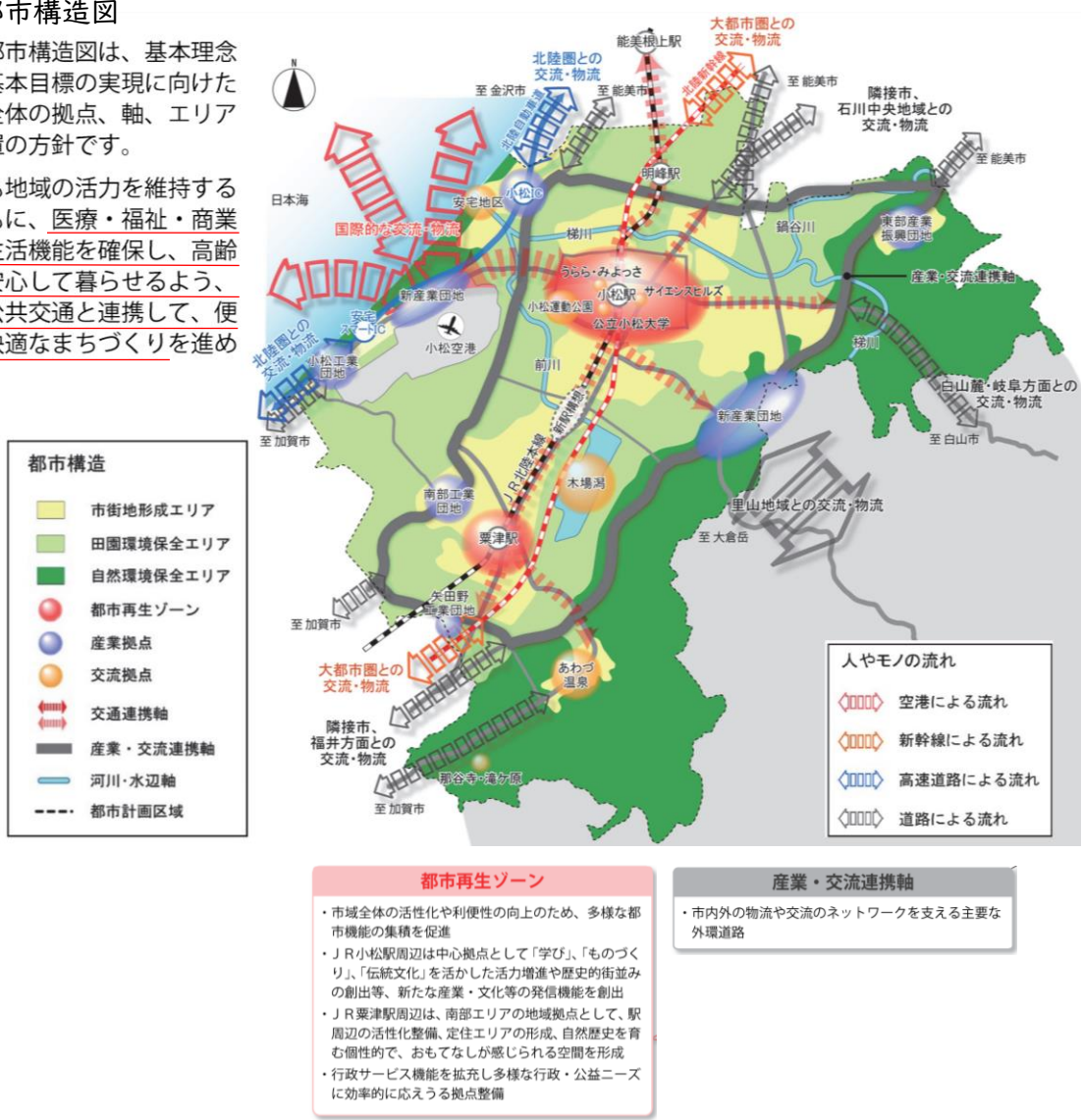
計画名称	こまつ創生戦略 PART2 (2020~2024 年度)
コンセプト	共創のチカラ、学びのチカラを推進力に、ひとづくりから地方創生
主な目標値	2040 年に人口 10 万人以上 (2015 年 10.7 万人) 2024 年に小松空港国際線旅客数 30 万人 (2018 年 24.4 万人) 2024 年に小松駅年間乗車人数 <u>200 万人</u> (2018 年 165.5 万人)
取組方向性	<p>まち、ひと、しごと、地域の 4 つの旗印に、SDGs を加え、こまつ創生第 2 期の政策を展開</p> <p>(旗印 1) 日本一の学びのチカラで、まちの活力と未来を創生 ～はつらつーアクティブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未来づくりはひとづくりから</li> <li>○オリパラをみんなの心を育むレガシーに</li> </ul> <p>(旗印 2) アクセスとテクノロジーを活かし、北陸一の国際都市を創生 ～おもしろいーレボリューション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未来の小松駅を創造しよう、小松空港はもっと世界に <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国屈指の高速交通ネットワークをさらに向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>北陸新幹線小松駅開業と利用促進</u> (南加賀のターミナル)</li> <li>② 小松空港の国際化と機能拡充</li> <li>③ <u>小松にしかできないレール (新幹線) &amp; フライト (国際空港) の魅力アップ</u> 等</li> </ul> </li> <li>・アクセスや新技術を活かした多くを惹きつける都市づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>④ <u>両拠点を結ぶ自動運転ビークルの導入</u> など空港周辺・駅周辺の都市機能をレベルアップし、際立ったエリアに 等</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○地域資源 7 大ブランドを磨き上げ、活かす</li> </ul> <p>(旗印 3) たゆまぬ改革で、多様な人びとのしごととまちの成長を創生 ～たくましいーイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あらゆる産業を未来型に進化</li> <li>○市民の安心・信頼のために改革にまい進</li> </ul> <p>(旗印 4) やさしさと幸せを追求し、家族みんなの笑顔を創生 ～こちよいールネサンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て・健康長寿の模範都市へ</li> <li>○令和の時代に大切なやさしいまちづくりを追求</li> </ul> <p>(旗印 5) 人と自然のハーモニーで、世界で輝く未来都市を創生 ～うつくしいーハーモニー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな自然とクリーンな環境が人びとを魅了する、未来都市を共に創ろう</li> </ul>

### (3) 都市計画マスタープラン

計画名称	都市計画マスタープラン（2019～2040年度）
コンセプト	～新時代をリードするまちづくり～ みんなが学び活力あふれる国際都市こまつ
方向性と基本目標	<p>①こまつの魅力づくりと交流推進</p> <p>②空路、鉄路、道路の優れたアクセス力を強化 交流・産業拠点整備／<u>交通結節点のアクセス向上</u>／<u>空港・駅周辺魅力向上</u></p> <p>③北陸の成長を牽引する産業都市 <u>交通基盤の整備</u>／ものづくり技術の活用</p> <p>④すべての人びとにやさしいスマートな共生のまちづくり 都市機能の立地促進／<u>居住環境の整備</u>／<u>公共交通の利便性向上</u></p> <p>⑤もっと便利に、もっと快適に、そして安全に～くらしの質の向上を～ <u>防災対策の充実</u>／<u>ICT活用による効率化</u>／多文化共生の推進</p> <p>⑥豊かな自然、まちなみ、歴史文化を活かした都市景観の形成</p>

#### 将来都市構造図

- 将来都市構造図は、基本理念及び基本目標の実現に向けた都市全体の拠点、軸、エリアの配置の方針です。
- 今後も地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、便利で快適なまちづくりを進めます。





## (4) 立地適正化計画

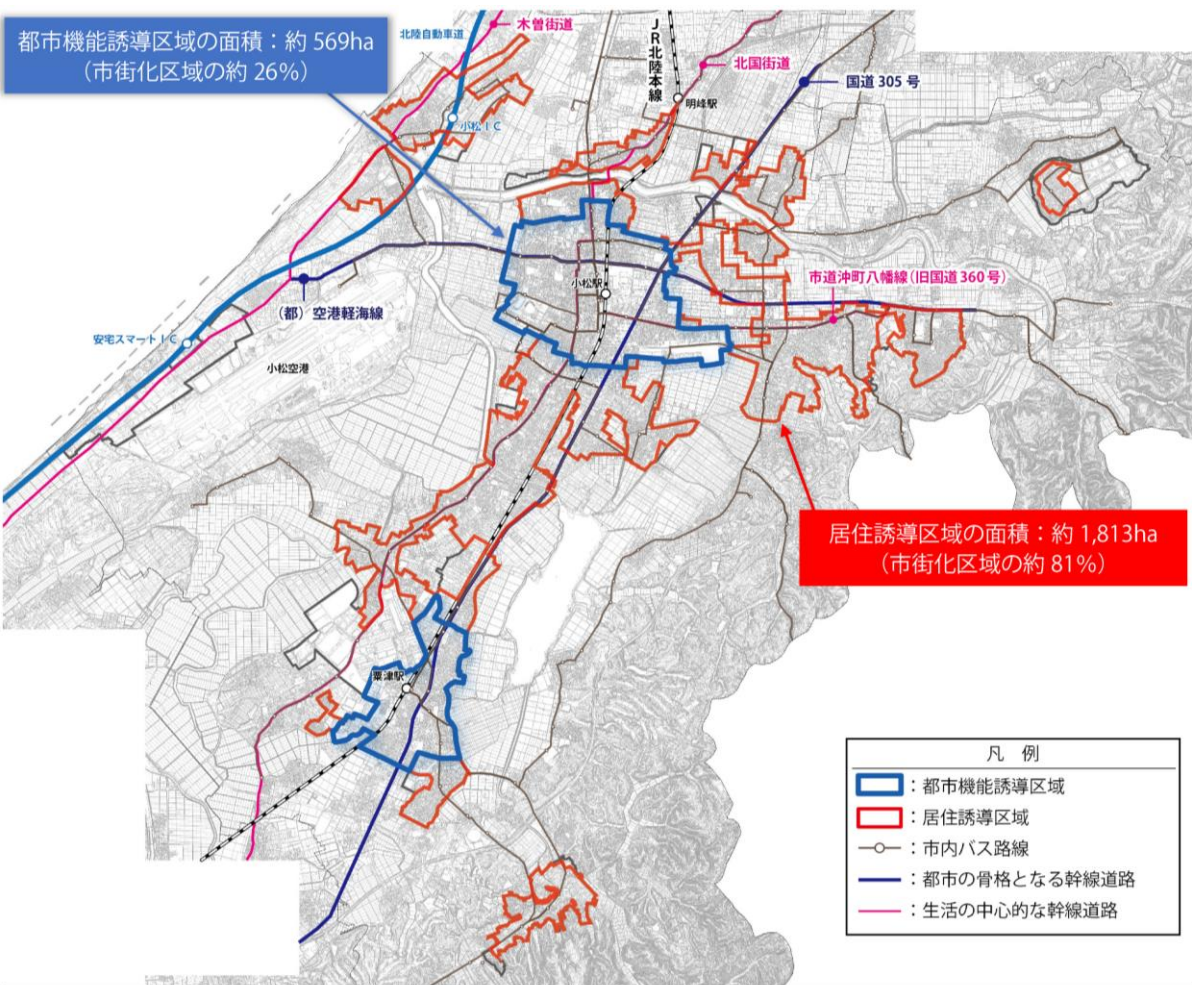
計画名称	立地適正化計画（2020～2030年度）
コンセプト	「新たなライフスタイルとまちのブランド力の向上」を図り、北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」をめざす
主な目標値	2030年にバス年間利用者数 600,000人（2017年 576,585人） 2030年にバスの財政支出 1億680万円（2017年 1億1400万円）

### 居住誘導区域

居住の誘導方針「市街地の暮らしやすさの維持・向上」と、公共交通における誘導方針「市内公共交通の充実・利便性の向上」に則って、今後市街化区域内で人口密度を維持すべきエリアとして、公共交通が利用しやすい区域（鉄道駅から800m、バス停から500mの徒歩圏）を含める公共交通沿線指定型となっている。

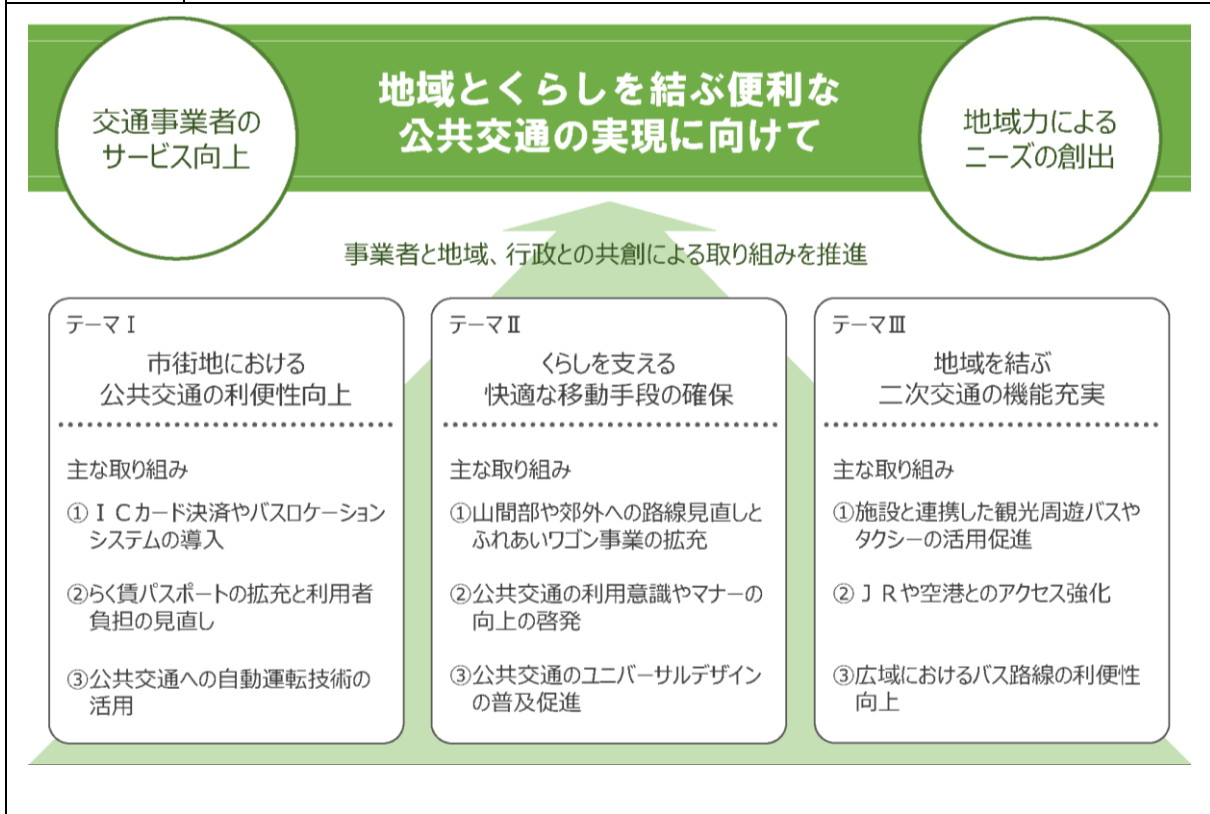
### 都市機能誘導区域

都市機能の誘導方針「交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出」に則って、北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」の中心にふさわしい「中心拠点」である小松駅周辺と、南部地区交流の核としての「地域拠点」粟津駅周辺を誘導区域に指定



## (5) 小松市地域公共交通構想

計画名称	小松市地域公共交通構想（2018～2022年度）
コンセプト	<u>地域とくらしを結ぶ便利な公共交通</u> を目指して
主な目標値	2022年度の目標値を以下の通り設定 ①コミュニティバス年間利用者数10万人（2016年度8.4万人） ② <u>ふれあいワゴン事業実施地区数10地区</u> （2017年度2地区） ③ユニバーサルデザイン型タクシー導入台数15台（2017年度9台） ④観光周遊パスポート年間発行枚数1000枚（2016年度411枚） ⑤ <u>空港線（EVバス含む）年間利用者数15万人</u> （2016年度11.5万人）
取組方向性	地域とくらしを結ぶ便利な公共交通の実現に向けて ○テーマⅠ： <u>市街地における公共交通の利便性向上</u> ① ICカード決済やバスロケーションシステムの導入 ② らく賃パスポートの拡充と利用者負担の見直し ③ 公共交通への自動運転技術の活用 ○テーマⅡ： <u>くらしを支える快適な移動手段の確保</u> ① 山間部や郊外への路線見直しとふれあいワゴン事業の拡充 ② 公共交通の利用意識やマナーの向上の啓発 ③ 公共交通のユニバーサルデザインの普及促進 ○テーマⅢ： <u>地域を結ぶ二次交通の機能充実</u> ①施設と連携した観光周遊バスやタクシーの活用促進 ②JRや空港とのアクセス強化 ③広域におけるバス路線の利便性向上



## (6) 小松市観光アクションプラン

計画名称	小松市観光アクションプラン（2014～2020年度）
コンセプト	おもてなしゲット500万人*の実現へ ※旧10年ビジョンの目標
主な目標値	2020年に交流人口500万人（2013年349万人）
取組方向性	<p>交流人口を拡大し、移住・定住を促進          ～もっと知りたい・また来たい・ぜひ住みたい観光まちづくり～</p> <p><b>MISSION1：世界に誇るKOMATSU JAPAN</b></p> <p>KEY PROJYECT① ものづくりワールド ～夢を描こう～          ACTION1 Attraction ～誘致～ ものづくり MICE          ACTION2 Sensation ～体感～ テクニカルビジット          ACTION3 Flight ～翔ばたく～ スカイワールド          ACTION4 Evoluer ～進化する～ 乗りもののまち          ACTION5 Discovery ～発見～ ミネラルロード</p> <p>KEY PROJYECT② 歴史・文化ロマン ～華を咲かそう～          ACTION6 Spirits ～元気・勇気～ 難関突破の道          ACTION7 Elegance ～雅～ 曳山250年          ACTION8 Romantic ～ロマン～ 千年物語</p> <p>KEY PROJYECT③ 景観・食文化の景勝地 ～美を伝えよう～          ACTION9 Healing ～癒し～ ウォーターサイド・木場湯          ACTION10 Delicious ～恵み～ こまつもん</p> <p><b>MISSION2：積極的なプロモーション</b></p> <p>KEY PROJYECT④ シティプロモーション ～世界へ伝えよう～          ACTION11 i-promotion ～イメージ・アイデンティティ・ICT～          シティセールス</p> <p><b>MISSION3：国際都市のおもてなし</b></p> <p>KEY PROJYECT⑤ グッドマナー作戦 ～マナーはやさしい～          ACTION12 Yokoso ～ようこそ～ インバウンド観光          ACTION13 Standpoint ～視点～ インクルーシブ観光</p> <p><b>MISSION4：便利で快適な交通・アクセス</b></p> <p>KEY PROJYECT⑥ アクセス向上 ～通リズムでつなごう～          ACTION14 Skyway ～高速～ 航空ネットワーク          ACTION15 Navigation ～楽ちん～ 乗継観光</p> <p><b>MISSION5：広域連携で魅力アップ</b></p> <p>KEY PROJYECT⑦ 広域ネットワーク ～輪を広げよう～          ACTION16 Cooperation ～連携～ 広域ルート          ACTION17 Branding ～創造～ 地域プロモーション          ACTION18 Mobility ～便利に～ 観光交通アクセス</p>

## (7) こまつやさしいまち推進プラン

計画名称	こまつやさしいまち推進プラン（2016～2020年度）
コンセプト	だれもがくらしやすく、訪れやすいまちへ ～たすけあい・おもてなしのやさしいまち こまつ～
主な目標値	2020年度のはつらつ協議会数 15 地区以上（2016年度 4 地区） 2020年度のユニバーサルデザイン型タクシー 10 台（2016年度 0 台） 2020年度のバス停の上屋設置 60 カ所（2016年度 54 カ所） 2020年度のバス等の行き先表示に外国語標記（スマホでの情報提供を検討）
取組方向性	<p>○7つのやさしい視点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子育て</li> <li>2 元気シニア</li> <li>3 フレイル（虚弱）</li> <li>4 みんなコミュニティ</li> <li>5 小中学生</li> <li>6 観光・歴史資源</li> <li>7 エコ</li> </ol> <p>○6つの重点アクションプロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 共創 市民・事業者・行政の協働による7つの「やさしい」視点推進</li> <li>2 地域づくり 地域の拠点として公民館活動を活性化</li> <li>3 人育て 地域社会への参加促進</li> <li>4 次世代へ 未来をつくる「人とひと」</li> <li>5 見える化 どこでも、誰でも「やさしい」</li> <li>6 場・環境づくり みんなが参加できる文化・体育活動</li> </ol>





## (8) こまつ障がい者プラン

計画名称	第6期こまつ障がい者プラン（2018～2020年度）
コンセプト	すべての人があんしんして暮らせる共生のまちへ
取組方向性	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #fce4ec;"> <p><b>【基本方針】</b> 障がいの理解促進と 市民共創による 共生のまちづくり</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">支え合う 地域づくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(1) 障がいに対する理解の促進</p> <p>① 理解促進</p> <p>(2) 福祉教育の推進</p> <p>① 交流及び共同学習の推進</p> <p>② 福祉教育の推進</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(3) ボランティア活動の推進</p> <p>① ボランティア活動センターの充実とボランティア等の養成</p> <p>② 障がいのある人のボランティア活動への参加支援</p> </div> </div> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #fce4ec;"> <p><b>【基本方針】</b> 療育・教育の 充実と 自立の実現に 向けた支援</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">笑顔つながる支援</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(1) 早期支援の推進</p> <p>① 保育所・認定こども園等での受け入れ推進</p> <p>② 専門的な支援の充実</p> <p>③ 児童系福祉サービスの充実</p> <p>④ 遊びの場の提供</p> <p>⑤ 適切な就学支援の充実</p> <p>⑥ 教育的ニーズに応じた教育の充実</p> <p>⑦ 特別支援教育体制の充実</p> <p>⑧ 教育と福祉の連携</p> <p>⑨ 年齢期によって途切れることのない支援の提供</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(2) 生活支援の充実</p> <p>① 小松市障害者自立支援協議会による地域福祉の向上</p> <p>② 相談支援体制の強化</p> <p>③ 情報提供の充実</p> <p>④ 生活訓練の充実</p> <p>⑤ 福祉の人材育成</p> <p>⑥ 住まいの場の確保</p> <p>⑦ 日中活動の充実</p> </div> </div> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #fce4ec;"> <p><b>【基本方針】</b> 障がいのある人の 健康と 日々の暮らしを 守る</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">健康やかな 生活</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(1) 予防と早期発見</p> <p>① 母子保健事業の充実</p> <p>② 成人保健事業の充実</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">あんしんの 地域社会を支える</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(1) バリアフリー整備の推進</p> <p>① 建築物の整備推進</p> <p>② 障がいのある人の意見のとりいれ</p> <p>③ 住宅の整備推進</p> <p>④ スポーツ・文化施設のバリアフリー整備推進</p> <p>⑤ 道路、公園等の整備推進</p> <p>⑥ 公共交通機関の整備推進</p> <p>⑦ 自宅で自立した生活を送るための住宅の整備促進</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(2) 防災体制の確立</p> <p>① 地域防災体制の整備</p> <p>② 避難行動要支援者の把握・避難支援等</p> <p>③ 避難生活に対する支援</p> <p>④ ICTを活用した緊急時の情報伝達等の充実</p> <p>(3) 権利擁護・虐待防止の推進</p> <p>① 権利擁護の体制整備</p> <p>② 障がい者虐待防止対策の推進</p> <p>③ 「合理的配慮」と差別解消への対応</p> </div> </div> </div> </div> </div> </div> </div>



## (10) 成長戦略（未来投資会議）

計画名称	成長戦略実行計画（2020～2025年度、政府の未来投資会議）
コンセプト	我が国が、AI、IoT、ロボット、ビッグデータなど、第4次産業革命の新たな汎用技術の潜在力を最大限にいかし、生産性向上や経済成長につなげるためには、経済社会システム全体の再構築を図る必要がある。こうした問題意識の下、Society5.0のための個々のテーマに関して、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ社会への対応も踏まえ、成長戦略を描く。（中略、一部編集）
モビリティ分野の主なKPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度目途での遠隔監視のみの自動運転移動サービスが開始</li> <li>・2022年度を目途にドローンの有人地帯での目視外飛行による荷物配送等のサービスを実現</li> <li>・2023年に「空飛ぶクルマ」の事業を開始</li> <li>・2025年目途に高速道路上でレベル4の自動運転が実現</li> <li>・2030年までに地域限定型の無人自動運転移動サービスが全国100か所以上で展開</li> <li>・2030年に安全運転支援装置・システムが、国内販売新車に全車標準装備、ストックベースでもほぼ全車に普及</li> </ul>
取組方向性	<p>人口減少の本格化、運転者不足の深刻化等に伴い、地方での移動手段や物流の確保、特に高齢者の支援が喫緊の課題となっている。さらに新型コロナウイルス感染症の拡大が地域の移動手段に広範な影響を与えている。短期的な需要減少に加え、「新しい生活様式」がもたらすヒト、モノの移動をめぐる構造的変化への対処が必要である。</p> <p>地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに効率的に対応するためには、AI等により個人が様々な交通手段の最適な組み合わせを選択できる新たな交通サービス（MaaS：Mobility as a Service）を、自動運転などの新技術と組み合わせ、地方公共交通の維持・活性化を図っていく必要がある。特に、人口減少地域では、交通サービスと物流、医療・健康、買物といった他サービスを組み合わせることで、地域課題の解決も可能となる。下記は取組の例。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①サポカー（安全運転サポート車）限定免許の創出</li> <li>②一般旅客自動車運送事業者が協力する自家用有償旅客運送制度の創設</li> <li>③低速・小型の自動配送ロボットの社会実装</li> <li>④日本版MaaSの推進（キャッシュレス化や混雑情報等の提供）</li> <li>⑤乗合バスのパターンダイヤ、定額制乗り放題運賃、貨客混載など</li> <li>⑥鉄道やバス等複数交通手段や観光施設等を横断的に利用できる、いわゆるフリーパスの手続き簡素化</li> <li>⑦モビリティと物流・サービスの融合（自動車による飲食店営業等の標準化、貨物自動車運送事業者による旅客運送、観光・小売り・医療等連携MaaS、タクシー事業者による食料等の有償運送の特例措置）</li> <li>⑧特定地域基盤企業である乗合バス事業者に関する独占禁止法特例法の制定</li> <li>⑨AIやビッグデータを活用し未来を先行実現するスーパーシティ構想実現</li> </ol>

## (11) 小松駅・小松空港をつなぐ自動運転バスの導入事業

計画名称	内閣府未来技術社会実装事業（2020～2024年度）
コンセプト	空港利用者の多くが金沢や福井方面への直行バス等を利用している現状に加え、空港利用者をもっとまちなかに誘導するため、観光・交流面の強化などに加え、特に「新幹線駅⇄空港間を直結する快適・スムーズなアクセスの実現」が課題であり、新幹線駅と約4.4kmの至近距離にある小松空港との相乗効果で“北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」”をめざす
主な目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松空港国内遠隔地路線利用者（本州以外分）(札幌便,福岡便,那覇便) 2019年度 34.4万人 ⇒ 2024年度 45万人</li> <li>・小松空港国際線利用者（ソウル便,上海便,台北便,香港便,チャーター便） 2019年度 20.8万人 ⇒ 2024年度 30万人</li> <li>・JR小松駅1日平均乗車人員 2018年度 4,535人 ⇒ 2024年度 8,000人</li> <li>・駅-空港間1日平均バス利用者 2019年度 308人 ⇒ 2024年度 800人</li> </ul>
取組方向性	<p>JR小松駅～小松空港間において、2023年を第1ターゲットとして暫定レベル3の自動運転バスによる移送サービスを開始。そして日野自動車(株)をはじめとする関係機関との連携のもと、AI,自動運転,5Gなど新たな技術開発の進展に応じた段階的な機能強化により、レベル4自動運転バスを社会実装。全国的課題であるドライバー不足に対応しながら多頻度アクセスを実現。</p> <p>①2020年度は金沢大学による実走行予定ルートでの自動運転実証実験（乗用車クラス、レベル3、ルート上の課題抽出等）</p> <p>②2021年度は日野自動車(株)による自動運転実証に向けた事前走行環境調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境計測機材搭載車による実走行経路の計測</li> <li>・計測結果分析に基づく改修箇所などの項目抽出</li> </ul> <p>また、金沢大学及び日野自動車(株)調査結果を受けたインフラ整備検討等</p> <p>③2022年度は金沢大学及び日野自動車(株)調査結果を受けたインフラ整備や日野自動車(株)による実走行予定ルートでの自動運転実証実験（小型バス）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度【駅-空港間シャトル暫定供用開始】 小型・多頻度のニューモビリティとして、暫定レベル3対応の自動運転バス（2台）及び運行管理システム（配車スケジューリング等）導入</li> </ul> <p>④2023～24年度は自動運転バスのレベル4化を目指した実証実験の継続（日野自動車(株)）</p> <p>⑤2024年度(以降)【駅-空港間自動運転シャトル・本格サービス開始】</p>



【日本版MaaS】



【自動運転のレベル】

